

~2022 実践事例検討 (ソーシャルワーク実践に基づく事例検討)	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	2単位	SR(講義)	1・2年
	担当教員	竹之内 章代	

■授業のテーマ

社会福祉の実践事例の検討及びその研究方法を学ぶ

■授業の目的

- ・社会福祉の実践事例を検討することにより事例の理解を深め、ソーシャルワーカーとしての、理論に基づいた実践力を向上させる。
- ・社会福祉の実践事例をソーシャルワークの視点から分析し、主体的に社会福祉研究を行うための、倫理と知識、及びその方法を学ぶ。

■授業の到達目標

1. 社会福祉実践における事例検討の位置づけを理解する。
2. 実践事例の検討をモデルや理論などの生成に至る方法の一部として位置づけ、それを応用し、新たな知見を見いだす試みを実践することができる。
3. 実践事例の検討を行うことで、自らの社会福祉実践力を高め、専門性について理論立てて説明することができる。

■授業の概要

本講義では、社会福祉に関連する諸課題を「実践」から導きだし検討することにより、社会福祉専門職としての実践力の体得と、研究者としての研究力の向上を目指すものである。ここでは実際に、社会福祉の現場での事例を、社会福祉の専門的知識や専門的技術、さらにソーシャルワークの研究者としてもつべき倫理をベースに検討する。より専門性の高いソーシャルワーカーの養成にも寄与するものである。

スクーリングでは、まず実践における事例検討の意義や目的を知ること、さらに実践事例検討を支える専門的知識や技術、倫理について学ぶ。これらの基本的な視点を学んだ上で、さまざまな実践分野から受講者の実践事例を用いて、受講者とともに検討を行う。検討の中から導き出された実践や研究の視点を確認し、修士論文を作成する際の一つの方法として活用できるようになることを目指す。

■スクーリングの事前課題 (学修時間の目安：6～12時間)

- ・初回(1日)スクーリング事前課題：事前にテキストの該当部分を読み、課題や疑問点などをまとめておく。(6時間程度)
- ・2回目(2日間)スクーリング事前課題：事前課題として事例を作成し(6時間程度)、1回目スクーリング受講から3週間後までに提出。 ※ p.97スクーリングの事後課題「課題1」を参照。

■スクーリング授業計画 (状況に応じて会場ではなくリモートで実施します)

	授業の内容	授業の方法
1	ソーシャルワークにおける事例とは	オンデマンド
2	実践事例検討を支える専門的知識、技術とは	オンデマンド
3	実践事例検討の際のソーシャルワーカーとしての倫理及び研究者倫理	オンデマンド

	授業の内容	授業の方法
4	実践事例検討の方法	オンデマンド
5	事例検討の実際 1 事例の分析枠組みを知る	対面
6	事例検討の実際 2 対象や分野ごとの検討	対面
7	事例検討の実際 3 対象や分野ごとの検討	対面
8	事例検討の実際 4 検討のふりかえり	対面
9	事例検討から研究へ 1 事例の共有	対面
10	事例検討から研究へ 2 研究の方法や手法	対面
11	事例検討から研究へ 3 それぞれの事例の研究課題を抽出し検討する	対面
12	講義全体の振り返りと課題の確認	対面

■スクーリングの事後課題

課題 1	テキストやスクーリングでの学びから、事例を作成してください。 ※提出期限：初回（1日）スクーリング受講から3週間後（今年度は2021年11月6日〔土〕）
課題 2	社会福祉の実践事例を取り上げ、スクーリングで学んだ方法に基づいて「実践研究」の形にまとめてください。 ※2回目（2日間）スクーリング受講後に提出（今年度の最終締切2022年1月7日〔金〕）

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



スクーリングとテキストからの学びを参考にまとめるとよいでしょう。



スクーリングとテキストからの学びについてまとめると同時に、実践における事例検討の具体的な活用ができるように、事例についての記載方法やどのような研究の視点で考察するかを考えながらまとめてください。

■評価の方法・基準

スクーリング時の参加度25%、プレゼンテーション25%、事後課題レポート50%

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- *1) 岩田正美他編（2006）『社会福祉研究法：現実世界に迫る14レッスン』有斐閣アルマ。
- 2) 渡部律子（2007）『基礎から学ぶ気づきの事例検討会：スーパーバイザーがいなくても実践力は深められる』中央法規出版。
- 3) 野口定久他編（2014）『ソーシャルワーク事例研究の理論と実際：個別援助から地域包括ケアシステムの構築へ』中央法規出版。

<科学研究・社会福祉研究一般について>

- 4) Kuhn, Thomas S. (1962) The Structure of Scientific Revolutions, University of Chicago. (=1971, 中山茂訳『科学革命の構造』みすず書房.)
- 5) Polanyi, Michael (1966) The Tacit Dimension, Routledge & Kegan Paul Ltd. (=1980, 佐藤敬三訳『暗黙知の次元：言語から非言語へ』紀伊国屋書店.)
- 6) Glaser, Barney G. & Strauss, Anselm L. (1967) The Dictionary of Grounded Theory: strategies for

qualitative research, Aldine Publishing Co. (=1996, 後藤隆他訳『データ対話型理論の発見』新曜社.)

7) 好井裕明 (2006)『「あたりまえ」を疑う社会学：質的調査のセンス』光文社新書.

<事例を書く・記録を書くことについて>

8) 実践記録研究会編 (2003)『方法としての実践記録』相川書房.

9) Timms, Noel (1972) Recording in Social Work, Routledge & Kegan Paul. (=1989, 久保紘章他訳『ソーシャル・ワークの記録』相川書房.)

10) 八木亜紀子 (2012)『相談援助職の記録の書き方』中央法規出版.

<事例検討の実践への適用について>

11) 岩間伸之 (2005)『援助を深める事例研究の方法：対人援助のためのケースカンファレンス』ミネルヴァ書房.

12) 相澤譲治、津田耕一編 (2000)『事例を通して学ぶスーパービジョン』相川書房.

13) 成田善弘監修 (2018)『事例検討会から学ぶ：ケースカンファレンスを作る5つのエッセンス』金剛出版.

<事例を使った研究方法・研究例について>

14) 箕浦康子編著 (1999)『フィールドワークの技法と実際：マイクロ・エスノグラフィー入門』ミネルヴァ書房.

15) 中野卓編著 (1977)『口述の生活史：或る女の愛と呪いの日本近代』御茶の水書房.

16) Langness, L. L. & Frank, Gelya (1981) Lives: an anthropological approach to biography, Chandloer & Sharp Publishers. (=1993, 米山俊直、小林多寿子訳『ライフヒストリー研究入門：伝記への人類学的アプローチ』ミネルヴァ書房.)

17) 好井裕明他編 (1999)『会話分析への招待』世界思想社.

18) 中澤潤他編著 (1997)『心理学マニュアル：観察法』北大路書房.

19) 仲村祥一編 (1988)『社会学を学ぶ人のために』世界思想社.

20) 田中千枝子他編 (2013)『社会福祉・介護福祉の質的研究法：実践者のための現場研究』中央法規出版.

21) 鯨岡駿『エピソード記述入門：実践と質的研究のために』東京大学出版会.

22) 田中圭治郎編 (2000)『現場の学問・学問の現場』世界思想社.

23) 六車由実 (2012)『驚きの介護民俗学』医学書院.

24) 浦河べてるの家 (2005)『べてるの家の「当事者研究」』医学書院.

25) 熊谷晋一郎編 (2017)『みんなの当事者研究』臨床心理学増刊第9号、金剛出版.

26) 栄セツコ (2018)『病いの語りによるソーシャルワーク：エンパワメント実践を超えて』金剛出版.

27) 波平恵美子、道信良子 (2005)『質的研究 Step by Step: すぐれた論文作成をめざして』医学書院.

28) 日本精神分析学会編 (2018)「書くことと精神分析 第一回：事例の書き方」『精神分析研究』Vol. 62, 52-82.